

南予をデザインする

南予地域の事前復興と西日本水害からの復興

太平洋から黒潮が流れ込む宇和海は、複雑な潮流の流れが豊かな漁場を形成し、いくつもの入江と浜地形の中で、固有の生活景が展開されるとともに、遍路道や旧宇和島藩の城下、肱川流域圏などの中山間の在郷とのつながりが継承されてきた。本スタジオでは、宇和海南海トラフ地震と津波を想定した上で、半島の風景と、拠点市街地の事前復興デザインの提案に、および西日本豪雨からの復興デザインの提案に社基・建築・都市の三専攻の大学院生が取り組む。スタジオでは、現地スタディツアーを通じて得られる半島と市街地に対するよりよい理解を下敷きに、地域の課題抽出を行い、半島漁業集落と市街地における事前復興のデザイン、海沿いの柑橘農業集落と在郷由来の市街地における豪雨災害復興デザイン、およびマネジメント提案に基づいて、現地発表会を実施する。

担当：羽藤英二、窪田亜矢、大月敏雄、本田利器、萩原拓也

外部講師：佐藤慎司（海岸工学）、小野田泰明（建築計画）、安原幹（建築設計）ほか

復興デザイン スタジオ

